

みどりの大使 が行く!

◆ 紀州備長炭づくりの現場へ

こんにちは、2023ミス日本みどりの大使上村さや香です。

8月下旬、和歌山県へ紀州林業プロモーションのための取材に行ってきました! 先ずは備長炭づくりを視察するため、和歌山県木炭協同組合代表理事原正昭さんの炭焼き窯へ伺いました。

そこは一面、灰色と炎のオレンジ色の世界。神聖



2023ミス日本みどりの大使

かみむら 上村 さや香



な空気が漂っていました。原さんは、私の祖父がかんざし職人だったことをご存知だったそうで、備長炭と黄色い花でできたかんざしをプレゼントしてくださいました。早速そのかんざしを身に付け、炭焼き窯の前で、白炭と黒炭の違いを学びました。釜から出した炭の火の消し方や使われる木が違うそうです。

今回の視察で一番驚いたことは、炭焼きは原木を自分の手で伐採するところから始まるということです。原さんは

◆ 林業は楽しい!!

「炭焼き職人は森に生かされている。その事を忘れちゃいけないし、若い人にも伝えていかないといけない」といい、この言葉にとっても感動しました。炭焼き職人は「森の番人」。炭を使う方や、炭を使ったお料理を食べるすべの方々に、この職人の矜持を知ってほしいと思います。

次に、白馬山脈の700〜800m中腹で作業されていた(株)橋本林業さんを訪ねました。丸太がプロセスソーで玉切りされる様子、急峻な山か



らワイヤーロープを使って伐採した木を運び出す架線集材を視察しました。代表の橋本さんは「林業は楽しい! マイナスイオンは浴び放題、働き方も自由、副業もOK。毎日幸せです。自分みたいな林業家が増え、新たな林業を作っていくしてほしい」と熱く語ってくださいました。

1番若手の22歳の方に話を聞くと、林業の世界に入ってなんともう5年目。副業もされていて「いつか独立したい!」と熱く語ってくれました。偉大な先輩の下で、将来の担い手が育っていると感じました。

◆ 国産木材ギターの完成

オリジナルソング「森で愛ましよう」はフルコーラス版を完成させました。また、石川県の能登ヒバアンバサダーの証として、完全国産木材のギターをお贈りいただきました。最強の相棒を手に弾き語りが続いていると、皆様が「なんの木材?」「黒柿! すごい!」「持ってみてもいい?」と話しかけに来てくれます。ギターが国産木材について話すきっかけになっています。弾き語りしている私に遭遇したら是非お声がけください。一緒に国産木材や林業のお話をしましょう♪